

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
363	患者が耳鼻咽喉科を受診した際、ザイザル錠が処方された。当該患者は別の医療機関から、アレロック錠5mgとアレグラ錠60mgが処方されている事をお薬手帳で確認したため、疑義照会したところ、ザイザル錠が処方削除となった。患者に、お薬手帳は医院でも提出して頂き、有効活用していくために、声かけを行っていく。	患者は医院ではお薬手帳を提出していなかった事により、医師は重複に気付かなかった。又、その他の方法でも併用薬を伝えていなかったのではないかと考えられる。	患者に、お薬手帳は医院でも提出して頂き、有効活用していくために、声かけを行っていく。	その他患者は医院ではお薬手帳を提出していなかった	処方された医薬品 販売名ザイザル錠 5mg	お薬手帳
364	患者が歯科を受診した際、ロキソニン錠が処方された。当該患者は別の医療機関から、同薬が処方されている事をお薬手帳で確認したため、疑義照会したところ、ロキソニン錠が処方削除となった。	患者は医院ではお薬手帳を提出していなかった事により、医師は重複に気付かなかった。又、その他の方法でも併用薬を伝えていなかったのではないかと考えられる。	患者に、お薬手帳は医院でも提出して頂き、有効活用していくために、声かけを行っていく。	その他患者は医院ではお薬手帳を提出していなかった	処方された医薬品 販売名ロキソニン錠 60mg	お薬手帳
365	患者が耳鼻咽喉科を受診した際、ボルタレン錠が処方された。当該患者は別の医療機関から、同成分薬が処方されている事をお薬手帳で確認したため、疑義照会したところ、ボルタレン錠が処方削除となった。	患者は医院ではお薬手帳を提出していなかった事により、医師は重複に気付かなかった。又、その他の方法でも併用薬を伝えていなかったのではないかと考えられる。	患者に、お薬手帳は医院でも提出して頂き、有効活用していくために、声かけを行っていく。	その他患者は医院ではお薬手帳を提出していなかった	処方された医薬品 販売名ボルタレン錠 25mg	お薬手帳

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
366	患者が歯科を受診した際、ロブ錠、セループカプセルが処方された。当該患者は別の医療機関から、同成分薬が処方されている事をお薬手帳で確認したため、疑義照会したところ、両剤が処方削除となった。	患者は医院ではお薬手帳を提出していなかった事により、医師は重複に気付かなかった。又、その他の方法でも併用薬を伝えていなかったのではないかと考えられる。	患者に、お薬手帳は医院でも提出して頂き、有効活用していくために、声かけを行っていく。	その他患者は医院ではお薬手帳を提出していなかった	処方された医薬品 販売名ロブ錠60mg 販売名セループカプセル50mg	お薬手帳
367	内科の処方箋において、クラビット錠250mg、ビオフェルミンR錠が処方されていたが、ビオフェルミンR錠はクラビット錠については適応がない旨、医師に疑義照会したところ、ミヤBM錠に変更となった。			知識が不足していた	処方された医薬品 販売名ビオフェルミンR錠 変更になった医薬品 販売名ミヤBM錠	薬の特性等
368	前回受診時、血液検査にてLDL値が高かったため、医師より患者へメバロチン錠5mgを1錠から2錠に増やして飲むように指示があった(処方無し)。他科調剤時にその事を聞いていたが、今回の処方が1錠であったため本人に確認後疑義照会した。これにより、処方が2錠へ変更となった。			その他医療機関側	処方された医薬品 販売名メバロチン錠5	薬歴等

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
369	イムラン錠とブレディニン錠が同一処方内にあり、患者との話してブレディニンは中止と聞いている。確認したところブレディニンは中止となった	前回まで処方されていたブレディニンの処方削除漏れ	処方前のDrの話をよく聞いておく	患者への説明が不十分であった(怠った)	処方された医薬品 販売名ブレディニン錠50	患者の申し出
370	薬歴により、別医療機関にて、同じ薬が投与中であった。重複投与であることを処方医に情報提供したところ、中止になった。	患者が受診時にお薬手帳を示していなかった。また、服薬中であることを、医師に伝えていなかった。	受診時には、必ず、お薬手帳を示すよう指導した。	患者側	処方された医薬品 販売名レバミピド錠100mg「日医工」	薬歴等
371	クラリシッド200mg 3錠 毎食後 処方⇒2錠 朝夕食後に変更。			知識が不足していた	処方された医薬品 販売名クラリシッド錠200mg	薬の特性等
372	ディオバン80mg 1錠 夕食後処方となっていたが、患者さんとの話では高いのは血圧ではなくコレステロールと判明。リピディル80mg 1錠 夕食後に変更となった。			その他処方間違い	処方された医薬品 販売名ディオバン錠80mg 変更になった医薬品 販売名リピディル錠80mg	患者の症状等

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
373	ベイスン錠0.3の用法が1日2回昼夕食後で処方。疑義により、昼夕食直前に変更になった。			コンピュータシステム	処方された医薬品 販売名ベイスン錠0.3	薬の特性等
374	処方箋による患者情報(男性3歳8ヶ月・体重16.1kg)から、ムコダインDS50%の用量(30mg/kg/日)を考えると、お薬の量が過量の為、処方医に疑義照会したところ、ムコダインDS50% 1500mg/日から 500mg/日に変更になった。	処方医が処方箋を入力する際に入力ミスした可能性が高い。	今まで通り、お薬が体重に見合った量かを必ず換算し、チェックする。	その他処方医による入力ミス	処方された医薬品 販売名ムコダインDS50%	年齢・体重換算の結果
375	メチコバイドの処方なし。疑義紹介にて、定期処方として出してもらう	定期とは別にメチコバイドが処方になっていた。14日後に定期が出た時に、入力が漏れていた	疑わしきは疑義紹介する。	コンピュータシステム	処方された医薬品 販売名メチコバイド錠500μg 変更になった医薬品 販売名メチコバイド錠500μg	薬歴等
376	てんかんによるけいれん発作のある患者にザジテンドライシロップが処方された。		患者情報をしっかり把握することで禁忌薬が処方されていないかを確認するようにすべき。	連携ができていなかった	処方された医薬品 販売名ザジテンドライシロップ0.1%	薬歴等 薬の特性等

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
377	食直後服用のところ食直前で処方されていたため、ドクターに確認後、用法変更になりました。			その他処方箋の不備	処方された医薬品 販売名ホスレノール顆粒分包250mg	薬の特性等
378	PL顆粒6gで処方あり、疑義紹介でピーエイ6錠の誤りであった。	入力ミス	要確認	確認を怠った	処方された医薬品 販売名PL配合顆粒 変更になった医薬品 販売名ピーエイ配合錠	薬の特性等
379	内科での併用薬すべてを患者が整形のDrに伝えてなかったため、重複投与があった。手帳で確認した後、整形のDrに報告し、内科の薬は一部中止となった。Drは一部の薬しか把握してなかった。		患者に手帳をDrに示すように説明した	患者側	処方された医薬品 販売名エディロールカプセル0.75μg 変更になった医薬品 販売名エディロールカプセル0.75μg	お薬手帳
380	併用薬でトラムセットを服用している患者にPL配合顆粒が処方になった。疑義照会してPLがリーゼ5mgに変更になった。	Drのほうで併用薬の確認が漏れたものと思われる。		知識が不足していた	処方された医薬品 販売名PL配合顆粒 変更になった医薬品 販売名リーゼ錠5mg	薬の特性等

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
381	スピロラクソン錠を服用中の患者に新規にセララ錠が処方された。併用禁忌に気づき処方医へ問い合わせ、スピロラクソン錠が中止となった。			確認を怠った医薬品	処方された医薬品 販売名スピロラクソン錠25mg「トローワ」	薬の特性等
382	RP1 アマリール錠1mg 3錠 分2朝夕食後(2-0-1-0) 28日分 RP2 アロチノロール塩酸塩錠10mg「DSP」 2錠 分2朝夕食後 28日分上記に処方が正しい処方です。前回に処方せんを受け取った時に、旧名「アルマール錠10mg」で処方されていたので疑義照会を行い「アロチノロール塩酸塩錠10mg「DSP」」に変更してもらい、今後、処方せんの記述も新名称に変更するはずだったのですが、今回は処方せんが以下のように届きました。RP1 アロチノロール塩酸塩錠10mg「DSP」 3錠 分2朝夕食後(2-0-1-0) 28日分 RP2 アルマール錠10mg 2錠 分2朝夕食後 28日分名称変更について勘違いがあったようで疑義照会を行い。正しい処方に変更してもらいました。	今回、アルマール錠が名称変更になるという事は、事前に文書で医療機関に伝えていたのですが、名称が似ていた為、医療機関で勘違いしてしまったのが原因のようです。	紛らわしい名称変更の場合は、変更内容をしっかり医療機関にフィードバックした方が良い。	連携ができていなかった	処方された医薬品 販売名アロチノロール塩酸塩錠10mg「DSP」 変更になった医薬品 販売名アマリール1mg錠	薬歴等

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
383	ガスポート、ロキソプロフェン錠が共に3錠分3毎食後に出ていた。前回両方とも2錠分2だったので、ロキソプロフェンを3錠分3毎食後にする時に一緒にガスポートも3錠分3にしたものと考えられる疑義紹介の結果、ガスポートがレバミピドに代わり、3錠分3のままとなった			確認を怠った 知識が不足していた	処方された医薬品 販売名ガスポート錠10mg 変更になった医薬品 販売名レバミピド錠100mg「サワイ」	薬の特性等
384	肺の生検があり、当薬局から処方されていたバイアスピリン錠100mgを一包化してある中から抜いてほしいと来局された。薬歴を確認したところ他の薬局からオパブロスモン錠5μgを処方されていることが判明し、オパブロスモン錠5μgは中止する必要がないかを検査を受けることになっている病院へ確認し、患者様へオパブロスモン錠5μgも服用しないように伝えた。	お薬手帳は持って行かれたようだが、先生は主治医の情報提供書だけを見られていたようだ。		連携ができていなかった	処方された医薬品 販売名オパブロスモン錠5μg	薬歴等 薬の特性等
385	以前フェロミア錠を服用して吐いた。患者本人も覚えていて、メーカーが違っても同じ鉄剤はいやだ。との事そこで、どこまで有効かははっきりしなかったが、違う鉄剤のフェロ・グラデュメット錠に変更してもらった。	患者本人もフェロミアが合わなかったのは覚えていたが、後発品(フェロチーム)がフェロミアと同じとは知らなかった。	名前が違っても同じ成分の薬があることを患者さんに知ってもらう	知識が不足していた 医薬品	処方された医薬品 販売名フェロチーム錠50 変更になった医薬品 販売名フェロ・グラデュメット錠105mg	患者の申し出

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
386	ヘリコバクターピロリ除菌の処方、サワシリンの用法が添付文書と異なるため処方医に確認。分3から分2に変更。			その他処方ミス	処方された医薬品 販売名サワシリン錠250	薬の特性等
387	メイアクトMS錠(100)で舌炎の発現の既往あり。薬歴確認に基づく疑義紹介により、別の抗生剤に変更になった事例。			その他薬歴確認による疑義紹介	処方された医薬品 販売名メイアクトMS錠100mg 変更になった医薬品 販売名クラリスロマイシン錠200「ME EK」	薬歴等
388	11歳の男児に、アスペリンドライシロップ2% 6g(成人最大量) 3x毎食後 で処方。1日量について確認したところ、4g 3x 毎食後に分量変更になった事例。		常に、体重あたりの力価と最大用量を確認する習慣が大切。	その他処方分量に対する薬剤師の疑問	処方された医薬品 販売名アスペリンドライシロップ2%	年齢・体重換算の結果
389	患者は、以前ロキソニン錠(60)の内服でむくみの発現の既往があった。外用剤ではあるが、同じ成分のテープ剤の為副作用の発現が懸念され、疑義紹介により薬剤変更となった事例。			その他薬歴の副作用記載に基づく疑義紹介。	処方された医薬品 販売名ロキソニンテープ100mg 変更になった医薬品 販売名モーラステープL40mg	薬歴等

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
390	当日患者は皮膚科受診しており、しもやけのかゆみ止めに「テルギンGドライシロップ」の交付を受けていた。鼻水が出る為内科受診して「エバスチンOD錠5mg「タイヨー」」が処方された。薬効が重複する為疑義紹介。エバスチンOD錠5mg「タイヨー」が処方削除された事例。		きめ細かな患者インタビューの大切さを認識しました。	その他患者インタビューにより、併用薬剤が確認できた。	処方された医薬品 販売名エバスチンOD錠5mg「タイヨー」	薬の特性等
391	以前より整形領域でメコバラミン錠500服用中の患者が、最近めまいのため他病院の耳鼻科を受診。そこで他薬局からメコバルミン錠500の処方があった。患者から同じような薬をもらって飲んでいるとの申し出があり、お薬手帳を確認すると、重複しており、整形の医師に疑義照会后、メコバラミン錠500が処方削除となった。		患者に受診時にはお薬手帳を必ず持参することを繰り返し伝える	連携ができていなかった 技術・手技が未熟だった 施設・設備 仕組み	処方された医薬品 販売名メコバラミン錠500「トーフ」	お薬手帳
392	腕のケガにて、消毒のため連日通院している男性患者が持参して処方箋の内容が、ビオフェルミンR錠のみだった。抗生剤もいっしょに処方されていないため、疑義照会し、ラックビー微粒Nに変更となった。	前回の処方がユナシン錠とビオフェルミンR錠だった。その続きで整腸剤のみ処方したいということで、ユナシン錠だけ削除された処方内容になっていた。	疑義照会にて、その都度、処方元に情報を伝える。	その他疑義照会	処方された医薬品 販売名ビオフェルミンR錠 変更になった医薬品 販売名ラックビー微粒N	薬の特性等

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
393	整形外科にてハイペン錠とレバミピド錠が1日2回で処方されたが、この患者は、他院にてセルベックスCpを1日3回服用中だった。疑義照会し、レバミピド錠が削除となった。	患者は、この日お薬手帳を持参されていなかったが、以前聞いていた他院の処方内容を薬歴に書いてあったのと、セルベックスCpの実物を見せた際、患者本人が「セルベックスを飲んでいいる」とおっしゃったこともあり、処方元に問い合わせた後、レバミピド錠が削除となった。	病院側が、お薬手帳を確認したり、患者本人に直接聞くなど、最新の情報を確認してくれるのが望ましいが、薬局側で確認を怠らないよう気をつける。	その他病院側の確認ミス	処方された医薬品 販売名レバミピド錠 100mg「EMEC」	薬歴等
394	PL顆粒4日分とイソジンガーグルが処方されていた。投薬前に薬歴チェックをしたところ、過去にPL顆粒服用後に尿量減少・排尿時の違和感を複数回感じているため、前立腺肥大を疑い、疑義照会。PL顆粒処方削除となる。患者本人には泌尿器科受診を繰り返すすすめているが、未だ受診は無し。(疾患の確定は無し)			連携ができていなかった	処方された医薬品 販売名PL配合顆粒 変更になった医薬品 販売名アストミン錠 10mg	薬歴等 薬の特性等
395	14日分の処方があったが、本人申し出により、残薬があることが発覚。8日分の処方へ変更となった。			患者への説明が不十分であった(怠った)	処方された医薬品 販売名エチカーム錠0.5mg	患者の申し出

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
396	インスリン注射の使用単位の記載なし。Drに電話にて確認し、朝22単位、夕14単位を確認し、患者に伝えた。			連携ができていなかった	処方された医薬品 販売名ノボラピッド 30ミックス注フレックスペン 変更になった医薬品 販売名ノボラピッド 30ミックス注フレックスペン	処方箋の書き方等
397	リーゼ錠5mg35日分の処方あり。30日制限のある薬剤であることDrに確認したところ、30日の処方へ変更となった。			連携ができていなかった	処方された医薬品 販売名リーゼ錠5mg	薬の特性等
398	アンヒバ坐剤の用量が200mgが適当である患者に対して、100mgで処方となっていた。Drへ電話確認後、200mgへ変更となった。			連携ができていなかった	処方された医薬品 販売名アンヒバ坐剤小児用100mg 変更になった医薬品 販売名アンヒバ坐剤小児用200mg	年齢・体重換算の結果
399	本人より処方薬に残薬のあるものがあるとの申し出あり。処方削除となった。			連携ができていなかった	処方された医薬品 販売名エパデール カプセル300	患者の申し出

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
400	膝関節痛を訴えた患者ですでに他院よりプレドニン(5)処方・服用中の患者に対しプレドニンの処方を確認。薬歴の併用薬記録より発覚したため、患者に継続服用中であることを確認。当該主治医に電話連絡し併用の旨疑義照会し、セレコックス(100)の処方へ変更となった。	プレドニン処方元の医師は積極的に患者に処方薬を伝えておらず、他院、他薬局で併用薬を見逃し易い状況にあった。	お薬手帳をしっかりと活用すること。また、せめて処方薬を患者が他院受診時、薬局来局時にわかるようにすること。	患者への説明が不十分であった(怠った)	処方された医薬品 販売名プレドニン錠5mg 変更になった医薬品 販売名セレコックス錠100mg	薬歴等
401	フロモックスは発疹出るためにダメであったにもかかわらず、お薬手帳への記載なかった。また親もわかっていながら病院では報告しなかった。問診の際に発覚し、疑義照会にて薬変更となる	お薬手帳への記載ミス副作用の薬の申し出がなかった	患者本人にも副作用があるときは申し出ること 薬手帳への記載	記録などに不備があった 患者側	処方された医薬品 販売名フロモックス小児用細粒100mg 変更になった医薬品 販売名セフゾン細粒小児用10%	薬歴等
402	他院より処方されているタケプロンOD錠(PPI)を服用中の患者さんにアシノン錠150mg(H2-RI)が処方されていた。作用重複のため照会に至る。	初めて処方された薬だったので詳しく説明したところ、系統は異なるものの薬理作用が同等な薬を服用中であることが発覚。	薬剤師の薬識を深めると共に、患者さんにもお薬手帳に記録をするよう勧める。	教育・訓練	処方された医薬品 販売名アシノン錠150mg	薬歴等

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
403	喘息治療中で他院処方シングレア細粒4%を寝る前に継続服用中。今回処方されたオノドライシロップ10%は同じ系統の抗ロイコトリエン拮抗薬。薬効が重複するため医師に照会。	薬歴、レセコンに注意が必要であることを予め記載。薬歴を取り出し、レセコンを見た事務員からの報告で調剤途中に発見することができた。	医院職員に他の併用薬も含めて正確に伝える。	教育・訓練 仕組み	処方された医薬品 販売名オノドライシロップ10%	薬歴等
404	2回目の受診。リファジン処方。。1回目の処方と一品目だけ違う。リファジンが単独処方(イスコチン処方なし)。。疑義照会、カルテ確認にてリフレックスを間違えてコンピュータ入力したことが確認できた。	薬剤の効能効果を知っていると起こりえない入力。150mgと15mgの見間違い。。	手書きをレセコンに入力するさい、再度確認。。医薬品の効能効果を知る。	確認を怠った 知識が不足していた 教育・訓練	処方された医薬品 販売名リファジンカプセル150mg 変更になった医薬品 販売名リフレックス錠15mg	薬の特性等
405	耳鼻科の処方せんを持参。アスベリン・カルボシステインが、前回は分3、今回は分2で処方されていたのだが、用量は同じままだったため、tellにて確認したところ、用量が間違っていたことが判明。			その他クリニックの確認ミス	処方された医薬品 販売名アスベリンドライシロップ2% 販売名カルボシステインDS50%「タカタ」	薬歴等

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
406	薬歴より緑内障の点眼薬を使用しており、疑義照会実施したところ、フスコデ配合錠からオースギ小青竜湯に変更になった。	患者が緑内障であることを医師に伝えていなかった。	医師にもお薬手帳を見せて他の医療機関に受診していることを伝えるよう指導した。	患者側	処方された医薬品 販売名フスコデ配合錠 変更になった医薬品 販売名オースギ小青竜湯エキス錠	薬歴等 薬の特性等
407	緑内障の患者でフスコデ配合錠は禁忌のため、問い合わせる。		フスコデ配合錠中止。アストミン錠10mgに変更となる。	記録などに不備があった その他疑義照会	処方された医薬品 販売名フスコデ配合錠 変更になった医薬品 販売名アストミン錠10mg	薬歴等 薬の特性等
408	外科よりユナシン375mgの処方があったが、問診歴にてペニシリン系により吐き気・発疹が起きた事確認し、処方医に疑義照会した。その結果、ファロム200mgに処方変更。			その他アレルギー歴より薬剤変更	処方された医薬品 販売名ユナシン錠375mg 変更になった医薬品 販売名ファロム錠200mg	薬歴等
409	リピトール服用中の患者にベザスターSR錠が追加処方。原則併用禁忌のため確認したところリピトールが処方削除になった。	リピトールが出ていることを医師が意識していなかったためと思われる。		確認を怠った	処方された医薬品 販売名リピトール錠10mg	薬歴等 薬の特性等

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
410	白内障Ope後の患者であり、手持ちのジクロード点眼液が少なくなったため、来院された。しかし、処方されたのは、ジクアス点眼液であり、聞き取りを行っている最中に違うと思い疑義照会を行った。医師は、ジクロード点眼液を処方したと思い込んでいた。	医師は、ジクロード点眼液を処方したと思い込んでいたが、実際には、ジクアス点眼液が、処方されていた。	初回の場合は、時間をかけてでも、聞き取りを徹底すること。また、医薬品を患者と一緒に見ながら服薬指導を行うこと。	医薬品	処方された医薬品 販売名ジクアス点眼液3% 変更になった医薬品 販売名ジクロード点眼液0.1%	患者の症状等
411	緑内障で眼科受診のため、PL配合顆粒は禁忌で問い合わせる。キョーリンAP2顆粒1.5g分3を5日分に変更となる。			その他疑義照会	処方された医薬品 販売名PL配合顆粒 変更になった医薬品 販売名キョーリンAP2顆粒	薬歴等 薬の特性等
412	他医療機関・他薬局でラベプラゾールの処方があり、当薬局で併用薬として確認していた。処方せんを応需した医療機関よりファモチジン錠の処方があったため、併用が不適と考え疑義照会を行なったところ、ファモチジン錠の処方削除となった。ファモチジンは今回が初めての処方であった。			その他院内での併用薬の確認不足	処方された医薬品 販売名ファモチジンD錠20mg「日医工」	薬歴等

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
413	メイラックス細粒1%120mg 1日3回2日分 が2歳男児に小児科から処方された。確認したところ、メリアクトMS小児用細粒10%の間違いであった。			コンピュータシステム 医薬品	処方された医薬品 販売名メイラックス 細粒1% 変更になった医薬品 販売名メリアクトM S小児用細粒10%	薬の特性等
414	透析患者に、初回にもかかわらず、フェブリク錠20mg1錠 が処方されていた。確認したところ、フェブリク錠20mg0.5錠に変更になった			知識が不足していた	処方された医薬品 販売名フェブリク錠 20mg	薬の特性等
415	リブル点滴を3ヶ月間おこなう間、定期処方の中のプロレナール(5)が中止になると薬歴に記載されていた患者。点滴が終了したと患者から聞き取ったが、プロレナールが再開されていなかったため、処方元へ問い合わせ。プロレナール処方が再開となる。			その他カルテの見落としか？	処方された医薬品 販売名プロレナール錠5μg 変更になった医薬品 販売名プロレナール錠5μg	薬歴等

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
416	8歳男児に【般】ロラタジンシロップ用1% 3g分3毎食後で処方されていたため、疑義照会をしたところクラリスドライシロップ10%小児用の間違いであった。			コンピュータシステム 医薬品	処方された医薬品 販売名クラリチンド ライシロップ1% 変更になった医薬 品 販売名クラリスドラ イシロップ10%小 児用	年齢・体重換算の結果
417	抗ヒスタミン薬で以前に呼吸困難をきたしたことがある患者にボララミンシロップが処方されていた。同伴していた保護者は以前の副作用について認識しておらず、薬局での初回問診で聞き取りがあったので、疑義照会。処方削除となった。			その他患者から処方 医への情報伝達不足	処方された医薬品 販売名ボララミンシ ロップ0.04%	薬歴等
418	本日にエリスロシンが追加で処方された。前回(2日前)は、整腸剤と咳止めだけだった。しかし、前々回(5日前)にジスロマックが処方されており、3回とも吐かずにきちんと飲めたとの事。7日効果が続くので、同じマクロライド系は飲まなくていいのではないかと思い、処方医に確認した結果エリスロシンは中止になった。	前々回の処方のため、処方医がジスロマックの処方を見落としたのかもしれない。カルテの確認が不十分だった。		その他処方時の確認 ミス	処方された医薬品 販売名エリスロシン ドライシロップW2 0%	薬歴等

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
419	耳鼻科の処方せんを持参。ピオフェルミン錠が処方されていたため、おながゆるいなどあるのか確認したが、ないとのこと。頭痛などの風邪症状があるとのことから、処方せん記載ミスの可能性を考え疑義照会した。ピーエイ錠を処方するところを間違っピオフェルミンR錠を記載したことが判明。ピーエイ錠で投薬した。	処方せん入力時に、『ヒ』から選ぶときに、間違えたのではないか、と思われる。		コンピュータシステム その他クリニックでの確認ミス	処方された医薬品 販売名ピオフェルミンR錠 変更になった医薬品 販売名ピーエイ配合錠	患者の症状等
420	耳鼻科の処方せんを持参。兄弟で2枚の処方せんが出ていて、患者から聞き取った症状から考えると、症状と処方せんの内容が合わないため、疑義照会した。兄弟で処方内容が入れ替わっていたことが判明。正しい処方で投薬した。			その他クリニックの確認ミス	処方された医薬品 販売名レボフロキサシン錠100mg「MEEK」 変更になった医薬品 販売名セフジトレンピボキシル錠100mg「トーフ」	患者の症状等
421	クラシエ39を医師が処方し忘れていた。患者さんとの話の中でそれが分かり、疑義照会した。			その他医師の処方忘れ	処方された医薬品 販売名クラシエ苓桂朮甘湯エキス細粒 変更になった医薬品 販売名クラシエ苓桂朮甘湯エキス細粒	患者の申し出

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
422	かかりつけ医よりサンコバ点眼薬0.02%、ティアバランス点眼薬0.1%をもらっていた患者さんが11月〇日眼科受診。眼科よりレボフロキサシン点眼液0.5%「日点」、カリーユニ点眼液0.005%を処方されて、追加使用するように指示があった。51日後、薬が切れたため、かかりつけ医よりサンコバ点眼薬0.02%、ティアバランス点眼薬0.1%、レボフロキサシン点眼液0.5%、カリーユニ点眼液0.005%が処方された。点眼薬4種類の処方を知っている施設の職員もいたが、それを知らない施設の職員と患者さんが眼科を受診した。その6日後、眼科はサンコバ点眼薬0.02%、ティアバランス点眼薬0.1%をもらっていると思っているので、カリーユニ点眼液0.005%、オフロキサシン点眼液0.3%「わかもと」を処方された。薬局でお薬手帳を見て、レボフロキサシン点眼液0.5%、カリーユニ点眼液0.005%を使用中であることがわかった。薬剤が重複するため、疑義照会をして今回眼科より処方された薬は処方中止となった。	施設職員間の連絡が不十分であった。お薬手帳が十分に活用されていなかった。	月に1度、眼科受診することになったらしい。今後は、点眼薬は眼科から処方してもらうようお願いした。お薬手帳を活用するようにお願いした。	報告が遅れた(怠った) 連携ができていなかった	処方された医薬品 販売名カリーユニ点眼液0.005% 販売名オフロキサシン点眼液0.3%「わかもと」	お薬手帳
423	定時薬であるトラムセット配合錠がでている患者に対し、風邪薬のカロナールが処方となった。アセトアミノフェンが重複するので疑義照会をし、カロナールが処方削除となった。			その他医師の認識不足	処方された医薬品 販売名カロナール錠200	薬歴等

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
424	整形外科より、ロキソニン錠とレバミピド錠が処方された患者に関して、持参したお薬手帳を確認したところ、この患者は他院でムコスタ錠をずっと服用中だった。処方医に問い合わせしたところ、レバミピド錠が削除された。	処方元の医院では、この患者のお薬手帳のコピーをとっていたが、ムコスタ錠を見落とししたと思われる。	服用中の薬を聞かれた患者の中には、始めのうち「胃薬も飲んでいる」と申告しない方が多いので遅くても投薬中に「似たような胃薬をもらっていないか」確認するようにしている。	その他手帳を確認せず	処方された医薬品 販売名レバミピド錠 100mg「EMEC」	お薬手帳
425	整形外科にてハイベン錠200mg、レバミピド錠100mg「EMEC」を処方された患者に関して、他院での処方薬を聞いたところ、レバミピド錠100mg「サワイ」を服用中だった。処方元に問い合わせた後、レバミピド錠100mg「EMEC」が削除された。	この患者はお薬手帳を持参していたが、整形外科では、胃薬以外の血圧の薬の申告はしていたが、手帳を提出していなかった。そのため、整形外科にて鎮痛・消炎剤とともにレバミピド錠100mg「EMEC」が処方されることになった。	胃薬に関しては処方が重なる確立が高いので、重複しないよう、投薬においてしっかりと確認していく。	その他常用薬未確認	処方された医薬品 販売名レバミピド錠 100mg「EMEC」	薬歴等
426	4歳の子に、メプチン錠9錠分2で処方されていたため疑義紹介し、シロップ9mlに変更になりました。			記録などに不備があった 勤務状況が繁忙だった	処方された医薬品 販売名メプチン錠50μg 変更になった医薬品 販売名メプチンシロップ5μg/mL	年齢・体重換算の結果

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
427	ペリゼリンが、1日1錠分3にて処方されてきたため問い合わせ、3錠分3に変更になりました。			記録などに不備があった 勤務状況が繁忙だった	処方された医薬品 販売名ペリゼリン錠 10mg	薬の特性等
428	ピーエイが1日6錠分3と、カロナール200が6錠分3で処方されていたため、成人のアセトアミノフェン1日1500mgまでという最高量をこえてしまうむねを伝え、疑義紹介して、カロナールが頓服に変更になりました。患者さんには、カロナールは、ピーエイで効果のなかった時のみ服用し、1日2回までと伝えました。			記録などに不備があった 勤務状況が繁忙だった	処方された医薬品 販売名カロナール錠 200	薬の特性等
429	イナビル吸入粉末剤 2キットの適応の用量のところ1キットで処方されていた。	イナビル吸入粉末剤に対する知識不足	医師に対してイナビルの情報を提供していく。	知識が不足していた	処方された医薬品 販売名イナビル吸入粉末剤20mg	薬の特性等

疑義照会に関する事例(薬局ヒヤリ・ハット事例)

No	事例の内容	背景・要因	改善策	発生要因	関連する医薬品の情報	調査結果
430	前立腺肥大の患者に禁忌薬が処方された。			その他疑義照会	処方された医薬品 販売名プロチンシロップ3.3% 販売名フスコデ配合シロップ 販売名PL配合顆粒 変更になった医薬品 販売名濃厚プロチンコデイン配合シロップ 販売名 販売名キョーリンAP2配合顆粒	薬歴等 薬の特性等